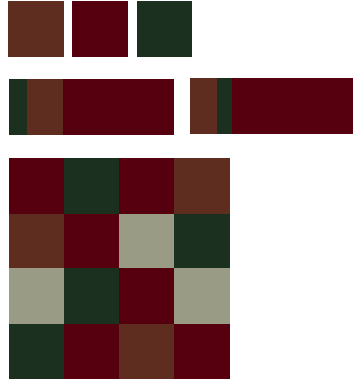


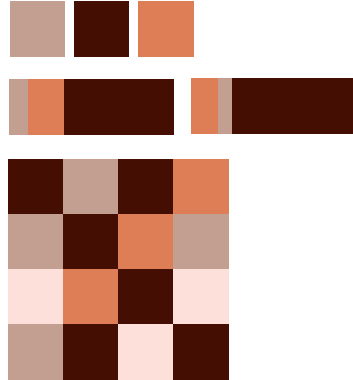
G¹ 煉瓦／れんが
7.5R 2.3/6.0 Dk-1 tone
ごく暗い赤/ダークレッド

最も北海道らしい素材の一つとして認知されている色である。連続したファサードの共通したアクセントとして使うことで一体感や高級感が演出される。派手な赤やワインレッドをあしらうことでなお一層の華やかさを現しながら、落ち着きも表現できるメリットを備えている。



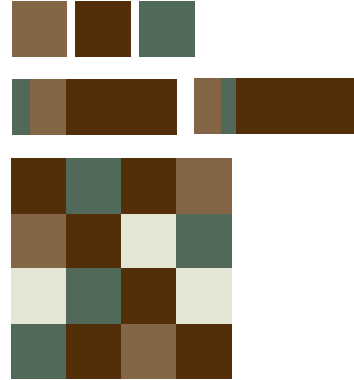
G² 生チョコ／なまちょこ
2.5YR 2.3/4.0 Dk-1 tone
ごく暗い橙/ダークブラウン

全面をこの焦げ茶で使うには暗すぎるが、同系のトーン変化でコントラストを付けると遠近感や立体感を感じさせる効果がでる。重量感のある材料をたっぷり使うよりも、配色で落ち着いた印象に仕上げるのに役立つ色である。茶色は全般的に木部との配色性に優れている。



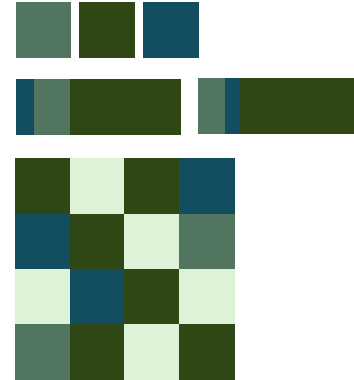
G³ 団栗／どんぐり
10YR 3.3/4.0 Dk-1 tone
ごく暗い黄/ダークイエロー

同じ焦げ茶色でも多少黄色に寄っているため上品な感じに仕上がる。寒色系のアクセントと組み合わせることでさらにバランスが取れた構成になる。艶を消した仕上げやきめ細かな素材が似合う。



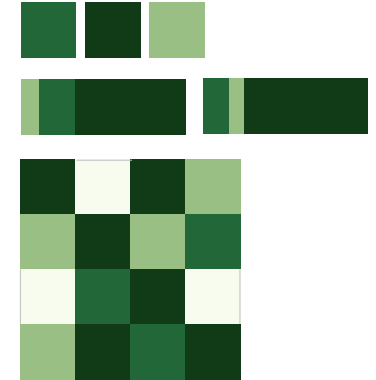
G⁴ 熊笹／くまささ
5GY 3.3/4.0 Dk-1 tone
ごく暗い黄緑/ダークイエローグリーン

自然の変化を背景として支える緑として一番暗いトーンであるが、白やブルーを取り込むことですっきり感が出てくる。緑を大切にするには自動的に緑色が美しく見えるような配慮が求められる。そのためには自然の緑よりも暗いトーンが必要と思われる。



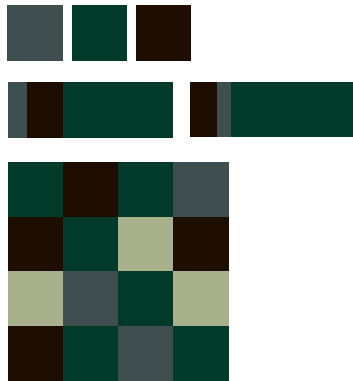
G⁵ 芸術の森／げいじゅつのもり
2.5G 2.3/4.0 Dk-1 tone
ごく暗い緑/ダークグリーン

真夏の生い茂った樹木の影がこの深緑である。少し青みを感じる程度であるが、洋風なイメージを与えてくれる。艶を出した素材や透明感のあるガラス等とマッチングしやすい特徴を持っている。



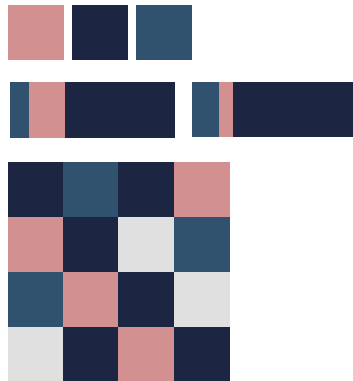
G⁶ 蝦夷松／えぞまつ
2.5BG 2.3/4.0 Dk-1 tone
ごく暗い青緑/ダークブルーグリーン

深い陰影を強調するような紺緑や見切りに使われる色であり、特に焦げ茶とのバランスが取りやすい。格調の高い品質感を感じさせる色でありながら、ソフトなイメージも感じさせるデリケートなトーンである。アクセントや部分使いにしてもかなりセンスの良さが求められる。



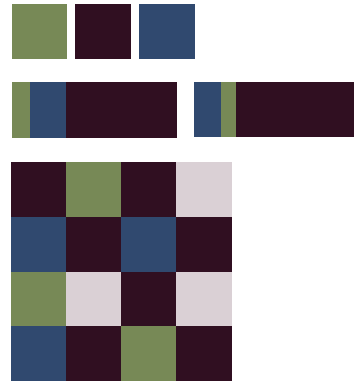
G⁷ 藍の里／あいのさと
5PB 2.3/2.5 Dgr tone
ごく暗い青/ダークグレイッシュブルー

全ての色のバックグラウンドとして最も使用頻度の多い色がこの濃紺である。どんな色ともマッチングできる不思議な特徴を持ち、配色上で合わない色がないくらい便利でバランスが取りやすい基本色である。同じ基本色の白との組み合わせで使われることが多い。



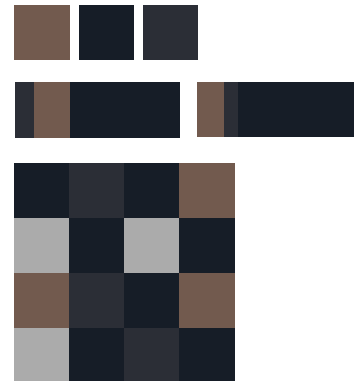
G⁸ 蝦夷紫／えぞむらさき
5RP 2.3/2.5 Dgr tone
ごく暗い紫/ダークグレイッシュパープル

紺色と比べるとかなり特殊な色である。ファッションカラーとして扱われることも多く、ほんの一部のアクセントカラーとしての使い方がせいぜいである。夜間には多少照明効果でやわらげることも考えられる。しかし、寒色系とのコンビネーションで普通に見られる配色になる。



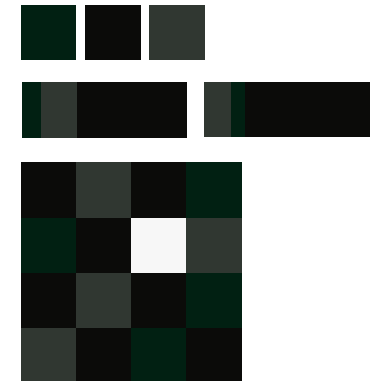
G⁹ 月無夜／みっどないと
5PB 2.0/1.5 Dgr tone
ごく暗い灰青/ダークグレイッシュブルー

通常の濃紺よりもさらに暗いトーンである。構造物全体のイメージから消したい装飾物などに使うことができる。大きくて目立っている物を気にならないイメージにするにはグレーやこの色をミックスさせて使うことで効果が得られる。景観全体に引き締まった印象を与える色であり、濃い緑やダークなグレーと同じ機能を持っている。



G¹⁰ 墨烏／すみがらす
N1.5
黒/ブラック

完全に背景色としての役割を持つ色の代表である。白い冬には反対に目立つ色であるが、普通は消したい部分の色として使われることが多い。配色上はどんな色にもマッチングしやすい特徴を持っている。



*この資料は印刷による表現であり実際のマンセル値とは異なりますので、正確には塗装見本を参考にしてください。